

校長室より

つれづれ

平成28年1月19日(火)

定期的に『校長室便り』を発行していますが、ふと感じたことなどを『つれづれ』で皆さんに届けます。

本番のつもりで

一昨日、テレビをつけると、卓球の全日本選手権の女子シングルス決勝戦が始まったばかりでした。画面には、卓球界の女王と呼ばれる石川佳純（いしかわ かすみ）選手と、中学生として、この大会初の決勝戦に進んだ平野美宇（ひらの みう）選手が映っていました。

石川選手の不動の地位が守られるのか、それとも平野選手の史上最年少優勝が果たされるのか、注目の一戦となりました。

結果は、1セット目より石川選手が圧倒的な強さを見せつけ、セットカウント4対1で圧勝しました。石川選手にとっては3連覇、通算4度目の優勝となりました。

ところで、石川選手の強さの要因は何でしょうか。過去に石川選手の練習の相手をしたことがある学校の先生からこんな話を聞いたことがあります。

「石川選手は決して練習の虫といったタイプのプレーヤーではないけれど、練習が始まればすごい集中力で練習に臨んでいる。また、練習でありながらも、本番さながらの気迫がある」

彼女にとっては、練習もまた本番であるのかもしれません。こんなところに石川選手強さの秘訣を感じます。

ところで、昭和の大力士に双葉山関という人がいました。第35代横綱まで登りつめた力士でした。本場所69連勝をはじめ、さまざまな不滅の記録を残したことでも知られています。

そんな双葉山関が、次の言葉を残しています。「稽古は本場所のごとく、本場所は稽古のごとく」

稽古では本場所を想定して、本場所では稽古を思い出し最高の力を発揮する。

私は、この言葉は「練習のための練習ならしないほうがまだ。絶えず本番のつもりでやなければ意味がない」とも解釈します。

石川選手や双葉山関の、練習に対するこのような姿勢は、私たちの生活にも活かすことができます。練習（＝準備）を疎かにしない。何事にも全力で取り組むということです。

皆さんも、このようなことを意識して、さまざまな活動に取り組めば、皆さんの可能性はますます大きくなっていくことでしょう。

<保護者の皆様へ>

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

大阪市教育委員会 天下茶屋中学校で検索



QR code

天下茶屋中学校HP → <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=j762750>